

Costume and Textile

No. 11

服飾文化学会会報

2006年3月

重要なお知らせ

2006（平成18）年4月1日 事務局が移転します

本学会は発足以来、事務局を大妻女子大学内に置き、運営と活動を続けてまいりましたが、本年4月1日より、共立女子大学内へ事務局を移転いたします。引継ぎが滞りなく行われるよう準備を進めていますので、会員の皆様には、よろしくご確認くださいますようお願い申し上げます。

服飾文化学会事務局

〒101-8433 東京都千代田区一ツ橋 2-2-1

共立女子大学 被服意匠研究室

Tel&Fax: 03-3237-2496（直通）

E-mail: isho@s1.kyoritsu-wu.ac.jp

第7回総会・大会のお知らせ

会員の皆様には、既にお知らせを送付いたしましたが、2006（平成18）年度の第7回総会・大会は、本学会が関西地方で初めて開催する総会・大会となります。例年にも増して多数のご参加を得て、活気に溢れた研究の場となることを期待して、ご案内を申し上げます。

開催日 2006年5月13日（土）・14日（日）

開催校 同志社女子大学 今出川キャンパス

〒602-0893

京都市上京区今出川通寺町西入

地下鉄今出川駅下車 徒歩5分

《プログラム》

5月13日（土）

13:30 研究発表

15:30 特別講演

『源氏物語』にあらわれた色と王朝人の色彩観」講師 吉岡幸雄氏

（染色家・美術工芸図書出版「紫紅社」代表・同志社女子大学嘱託講師）

17:00 総会

18:00 懇親会

5月14日（日）

9:30 研究発表

展示発表 ショートスピーチ

13:30 見学会「京都の花街文化－島原の太夫と輪違屋・角屋」

A 「輪違屋」見学と花扇太夫による太夫道中・舞などの実演と服飾解説

B 「角屋」見学

特別講演講師プロフィール
よしおかさちお
吉岡幸雄氏

1946年京都市に生まれ、早稲田大学第1文学部文芸学科卒業後、美術工芸の専門出版社「紫紅社」を設立。70冊に及ぶ出版活動を行う。1988年、江戸時代から続く生家「染司よしおか」の五代目当主を継承。植物染めによる日本の伝統色の再現にとり組む。毎年、東大寺お水取りに造り花の植物染和紙を奉納。薬師寺や法隆寺の染織品の復元、制作も手がける。

近年は『源氏物語』五十四帖の色彩と襲^{かさね}の配色美を古式に則った自然染めの技法により忠実に再現。著書は『日本の色辞典』（紫紅社）、『日本の色を染める』（岩波書店）他多数。

参加費用

大会参加費：会 員 3,000 円

非会員 4,000 円

学生会員 1,000 円

学生非会員 1,500 円

見学会費A：会員・非会員 3,000 円

学生会員・学生非会員 2,000 円

見学会費B：1,700 円

懇親会：5,000 円

昼食代 (5/14)：1,000 円

○第7回総会・大会実行委員会

実行委員長 清水久美子

同志社女子大学 服飾文化研究室

Tel & Fax 075-251-4237

2005年 第6回夏期セミナーを終えて

2005(平成17)年度第6回夏期セミナーは、長野県上田市の信州大学繊維学部構内にあるアサマリサーチエクステンションセンターを中心に1泊2日の日程で行われた(別添プログラム参照)。参加者は日帰りの方も含め35名であった。

1日目は13時から講演会とシンポジウムを行ったが、会場のアサマリサーチエクステンションセンターは、産学官連携支援施設として国、上田市、信州大学が協同して繊維学部構内に設立したものである。たまたま、繊維学部が私の母校でもあり、同級生の教授の働きかけがあつて、センターの会議室を借用できることになった。講演会に先立ち、平井利博繊維学部長から歓迎のご挨拶を頂いた後、講演会を開始した。

基調講演は日本綿業振興会の柳原美紗子氏により、「コットン・ファッションと素材」をテーマにして行われた。講演では、綿花輸入の現状、コットンの種類・科学・特徴、ファッション素材としてのコットンの歴史・現状・加工技術・今後のキーポイントなど、コットンに関わる総合的な話を拝聴することができた。

引き続き、服飾文化学会会長石井とめ子氏により、特別講演「まぼろしの鹿鳴館時代の衣裳—鍋



石井とめ子会長挨拶 信州大学繊維学部
アサマ・リサーチエクステンションセンター

島家の服飾遺品調査から—」が行われた。講演では、まず、佐賀藩11代藩主で、維新後、イタリア特命全権公使等を歴任し、鹿鳴館時代の重鎮的存在であった鍋島直大及びその夫人で、鹿鳴館における舞踏会で中心的存在として活躍した鍋島栄子の略歴が紹介された。次に、鍋島家の服飾遺品調査から明らかになった衣裳目録にある小袖夜会服の修復作業について、困難を極めた作業の過程を、多数の写真資料をもとに講演された。

暫時休憩の後、「服飾教育を考える」をテーマに、3人のパネリストによるシンポジウムが行われ



基調講演 柳原美紗子氏



シンポジウム 左より池田氏、岡松氏、多田氏

た。相模女子大の池田節子氏の提言「相模女子大チャレンジショップ・MARGHERITA」では、学生の実践力の向上や大学と地域との連携をめざして地元商店街にオープンしたチャレンジショップの運営などについて報告された。これ対して、運営上の問題点や参加学生の単位認定などについて質疑・応答があった。次に、奈良女子大大学院生の岡松恵氏から「遊楽図に見る小裂を使った服飾について」と題して、ご自身の研究の現状や問題点について報告があった。参加者からは、小裂の発生に深く関わる小袖の裁ち方の研究方法などについて助言があった。最後に、和洋女子大の多田洋子氏から「服飾教育としての編物の現状と今後への提言」と題した提言があった。ここでは、生活技術の低下が著しいと言われる中、編物教育を通して服飾教育をどのように組み立てていくべきか、生活技術の重要な一分野である服飾教育の必要性を常に訴えていく必要があるのではないかとの提言があった。質疑では、中・高校教育において、服飾教育も含めた家庭科自体が縮小傾向にあるという指摘があり、やはり、事あるごとに、服飾教育も含めた家庭科教育の重要性を訴えていく必要があるという意見があった。活発な意見交換もあり、有意義な講演会・シンポジウムであったと思われる。

夜の懇親会では、自己紹介等を通じて会員相互の親睦を深めた。当日はたまたま千曲川の花火大会が開催されていて、目の前で打ち上げられる花

火を懇親会会場から観賞することができ、思わぬ花火見物に参加者も感動したようである。

2日目は、朝9時に宿舎を出発し、まず塩田平にある工房藤本で上田紬の実演と作品を見学した。その後、当初は全員で信濃デッサン館に行く予定であったが、近くの無言館に行きたいという希望者が多数いたので、ここで2コースに分かれ、参加者の選択に任せることにした。

1班はバスで信濃デッサン館に向かったが、ここは村山槐多、関根正二など「夭折の画家」と呼ばれる薄命の画家のデッサンを中心に展示した美術館で、約1時間作品を鑑賞し、別所温泉に移動した。この近郊には、安楽寺、常楽寺、北向観音など多くの寺社、古跡が点在しており、各自が自由に散策することにした。

もう1つの班は、徒歩で無言館に出向いたが、ここは戦没画学生の絵画を展示した美術館で、別所温泉に向かった班と合流するまでじっくりと作品を鑑賞した。

12時過ぎに2班が再合流し、バスで須坂市の田中本家博物館に移動した。ここは、豪商田中本家の旧家を博物館として一般に開放したもので、代々伝えられてきた絵画、書、器、衣裳、民具、おもちゃなどの収蔵品の一部が展示公開されている。ここでは、まず昼食をとった後、各自が自由に展示品を見てまわった。

最後の訪問地は栗の産地として有名な小布施町で、街中の北斎館を訪れた。北斎館は葛飾北斎が



長野駅前にて

小布施滞在中に描いた肉筆画40点と、北斎筆の天井絵で有名な祭り屋台2台を常設展示しており、北斎の肉筆画を展示した日本唯一の美術館である。作品鑑賞や自由散策を楽しんだ後、バスで長野市に向かい、17時過ぎにJR長野駅で解散となった。

今回の夏期セミナーは諸般の事情で計画の立案がおくれ、開催が危ぶまれましたが、会長、副会長をはじめ参加者のご協力により無事終了することができ、担当者として少しは責任が果たせたと思っております。

また、会場を借用するにあたってご尽力いただいた繊維学部の藤松先生、会場設営や湯茶の準備など、快く受け入れていただいたリサーチセンターの岡田事務局長はじめ職員の方々に誌面を借りて感謝の意を表したいと思います。

(文責 石山正泰)



上田紬工房「藤本」

《夏期セミナープログラム》

8月10日(水)

12:30 JR上田駅集合

信州大学繊維学部へ移動

13:00 基調講演

「コットン・ファッションと素材」

講師：柳原美紗子氏(日本綿業振興会)

14:10 特別講演

「まぼろしの鹿鳴館時代の衣装」

講師：石井とめ子氏(服飾文化学会会長)

15:20 シンポジウム「服飾教育を考える」

パネリスト

池田 節子氏(相模女子大学)

岡松 恵氏(奈良女子大大学院生)

多田 洋子氏(和洋女子大学)

17:00 宿舎へ(タクシー又は徒歩)

18:30 懇親会(上田温泉 ホテル祥園)

8月11日(木)

9:00 宿舎発(貸切バス)

塩田平での見学会及び自由散策

上田紬工房「藤本」

信濃デッサン館見学

別所温泉近郊自由散策

12:00 須坂市へ移動

13:00 「豪商の館 田中本家」着

館内「龍潜」にて昼食後見学

14:30 小布施町へ移動

15:00 「北斎館」着 見学及び自由散策

17:20 長野駅着 解散

卒業論文・修士論文発表会

2006(平成18)年3月4日(土)、日本女子大学において開催されたプログラムは右の通りです。なお、例年は併せて掲載しています論文発表会の報告は日程の都合により『服飾文化学会会報 No.12』に掲載いたします。

《論文発表会プログラム》

開会の挨拶 服飾文化学会会長 石井とめ子

卒業論文

(座長 能澤 慧子) 13:40-13:55

ジャン・コクトーに見るファッションとアートの関係について

共立女子大学 宮澤 俊恵

(座長 鍛島 康子) 13:55-14:25

日本と韓国における色彩とファッション意識の分析

大妻女子大学 増渕 絵里・高田 雅子

日本における洋服の浸透の歴史と専門学校の役割

東京家政大学 戸田 清華

(座長 伊藤 紀之) 14:25-14:40

繊維製品の輸入の増大についての一考察

-1980年代から今日まで-

実践女子大学 野中 愛

<休憩 14:40-14:55>

修士論文

(座長 永井 房子) 14:55-15:15

女児の被服設計に関する基礎研究

和洋女子大学 鈴木ちひろ

(座長 鷹司 倫子) 15:15-15:35

鎌倉時代における女房装束-奈良国立博物館蔵「◎普賢十羅刹女像」にみる褌と懸裳の考察-

日本女子大学 長尾 順子

(座長 小笠原小枝) 15:35-15:55

三井家所蔵資料に見る近世の武家の婚礼衣装について

共立女子大学 林 智子

閉会の挨拶

懇親会「ウィミン」にて

*****事務局から*****

★会費納入のお願い

平成18年度の服飾文化学会会費6,000円を、本年5月中旬に、同封の払込用紙にてお振込み下さい。過年度未納の方もよろしくお願ひいたします。

***** 展覧会案内 *****

女子美アートミュージアム

●「KIMONO 小袖にみる華・デザインの世界」展
近世の小袖のデザインと表現技法に焦点をあて、小袖 41 領、裂 6 点を展示。会期中にシンポジウム、ワークショップを開催。ギャラリートークも行う。

主催 女子美術大学美術館
監修 長崎巖氏 (共立女子大学教授)
後援 相模原市、服飾文化学会ほか
会期 2006年4月28日(金)~6月11日(日)
火曜日休館
開館時間 10:00~17:00 (入館 16:30まで)
入館料 一般 500円 *学生, 未就学児, 65歳以上, 身体障害者手帳をお持ちの方は無料
住所 〒228-8538 相模原市麻溝台 1900
女子美術大学 10号館 1F
交通 小田急線相模大野駅より 神奈川中央交通バス (女子美術大学行) 終点下車
問合せ先 TEL/042-778-6801 (直通)
http://www.joshi.ac.jp/index_j.html

潘 琦

山本 麻子

渡辺 澄子

☆学生会員

石井 美恵

岡田 治樹

小高 理子

北野 祐子

花房 美紀

☆新入会員
五十嵐かつ代

岸田 緑

齋藤 昌子

鈴木美和子

平良美栄子

高橋 裕子

豊田 幸子

榎崎久美子

萩原 延元

会報 No. 11: 2006 (平成 18) 年 3 月発行
編集発行人: 服飾文化学会
事務局: 〒102-8357 東京都千代田区三番町 12
大妻女子大学第三被服意匠学研究室
TEL/FAX: 03-5275-6029
<http://www.fukushoku-bunka-gakkai.jp/>